

『「読む」からはじめる 日本語会話ワークブック』実践のレシピ ②  
「留学生と日本人学生がともに考える異文化」

【レシピの作成者】 吉川達

【キーワード】 大学、留学生、日本人学生、共修、異文化理解

【実践機関】 大学（国内）

【実践の種類】 日本人と留学生の共修授業

【対象者】 日本人学生（18名）、学部留学生、交換留学生（計22名、韓国9名、漢字圏13名、いずれも少なくともB2以上の上級）

【実践の時間数や回数】 1回90分の授業を2回（第3課「お金」と第10課「普通」）

【到達目標や目的】

- ・誰もが一度は考えたことのある世界共通のテーマで話し合うことで、思考を深める。
- ・他者との考え方、ものの見方の違いを感じ、互いの意見を尊重する。
- ・異なる考えの共通点を見つけ、意見を収束させる。

【進め方】

グループ分け

- ・3人を基本とし、一部4人
- ・日本人と留学生が混在するように

1) プレタスク「話してみよう」

- ・スライドに提示してチームで話し合う（10分）
- ・2, 3のグループにあてて、発表

2) ショートストーリーを読む

- ・紙で配付
- ・読む時間は10分間。様子を見て2分延長。

3) タスク1「内容を確認しよう」は、スキップ

4) タスク2「自分語りをしよう」

- ・1つずつスライドに提示し、7分程度話し合う。
- ・1つ話したら、2, 3のグループにあてて、発表
- ・教師がコメントする

5) タスク3「もっと深く話そう」

- ・考える時間はとらずにすぐに話し合い
- ・7分程度
- ・2, 3のグループにあてて、発表

6) タスク4「まとめよう」

- ・配付した用紙に記入
- ・時間があればその場で紹介。なければ翌週紹介。

- ・名言の解説も書く（特に比喩的な表現となった場合）

**【気づきとポイント】**

- ・タスク2は、3つの話題を一度に話し合うと、さらっと終わってしまうことがある。
- ・他のチームの内容を聞いたり教師がコメントしたりすることによって次の話し合いが活性化する。
- ・活動のやり方に慣れるため、「お金」や「結婚」のような話しやすいテーマから始めると、「普通」や「正義」のようなより抽象的なテーマになっても話しやすい。
- ・異文化理解が目的の授業だが、日本人学生同士、同国の留学生同士でも考え方に違いがあり、〇〇人という枠ではなく個人と個人が理解し合う活動となる。